

担任先生に聞く ホームルーム最前線

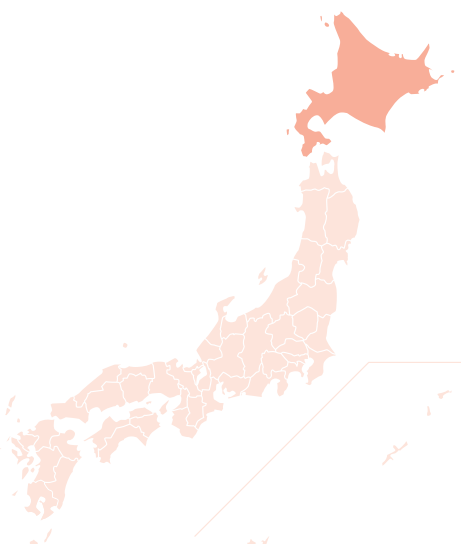
第64回

全国の担任先生を訪問して、
元気なクラスづくりのためのヒントを伺うこのコーナー。
今回は、高校時代に甲子園で準優勝経験のある先生が登場。
クラスを素敵な集団にする様々な取り組みをお伺いました。

北海道

北海学園札幌 高等学校

クラス全員が周り そのための指導に



Profile
三浦 琢斗 教諭
教職歴: 3年目
担当教科: 英語
分掌: 3学年担任 / 生徒指導部

から愛される人になってほしい。
はエネルギーを惜しみません。

Q&A 先生への一問一答

Q.クラス運営で最も重視している ポイントとは?

メリハリです。今しかできないことを精一杯楽しんで、よい思い出をつかってほしいですが、「やるべきこと」と「やりたいこと」が混在してしまうと、うまくいかなることが多くなると思います。「やる時はやる」「楽しむ時は楽しむ」という姿勢で、やると決めたことはしっかりやり切ろうと伝えています。

Q.教員になった理由は?

高校時代は野球ばかりだった私が教員をめざすきっかけになったのが、3年生の時の担任先生の存在です。学習面だけでなく生活面まで、未熟だった私をサポートしてくれる先生の優しさに触れて、「自分も生徒の役に立てる先生になりたい」と思いました。その先生は教員となった今も、困ったことがあれば相談する頼れる存在です。

Q.疲れた時の気分転換法は?

職場の先輩方だったり、学生時代の友人だったり、人と集まって、楽しく飲食することです。近い将来、今の生徒たちが成人した時に一緒に集まったら最高だろうと今から夢想しています。

Q.好きな言葉は?

「百折不撓」。これは母校の校訓なのですが、百回折れても立ち上がる不屈の精神の意。踏ん張ること、立ち上がること、失敗を恐れないうこと、全部詰まっている大好きな言葉です。

理想のクラス像

笑って卒業するために。
これがクラスの最終テーマです。

今春、初めて卒業生を出す三浦先生。「本当によいクラスになっている」と話す裏には、シンプルですが前向きで力強いビジョンがありました。

「3年生に進級した生徒たちにまず伝えたことが、『笑って卒業する』というクラスの最終テーマ。『そのために、これからは全部本気でやろう』というメッセージを込めて話をしました。私自身は野球しかやっていなかった高校時代でしたが、人生のターニングポイントと言える充実した3年間でした。やはり何事も中途半端では、卒業後に『よい高校時代だった』と振り返ることができないと思うんです。教師としてまだまだ未熟な私は、『自分も頑張るから一緒に頑張ろう』という指導しかできませんが、生徒たちには「できる／できない」ではなく「やるか／やらないか」という姿勢を持って、残りの高校生活を全力で過ごしてほしいと思っています。」

生徒に求めること

人が周りにいることが、
どれだけ自分の強みになるか。

「生徒には周りから愛される人間になってほしい」。今回の取材において、三浦先生は何回もそうおっしゃいました。その真意とは?

「私自身、本当に周りの人たちから力をもらっていますし、生徒たちにも周りから愛される人間になってほしいと思っています。大切なのは“forの気持ち”で、生徒たちには友達のため、クラスのため、チームのために動くように口酸っぱく言っていますし、発言する以上、私自身も生徒のためにエネルギーを惜しまず指導するように心がけています。その言葉が響いたのかどうか、今年のクラスは『みんなで助け合おう』という意識が強い生徒が多く、本当によいクラスになったなと感じながら指導できています。クラスは担任に似ると聞きますが、今のクラスは私が高校3年生だった時のクラスによく似た雰囲気になっていますね(笑)。」

ここだと思ったタイミングで 「学級通信」でメッセージ

私のSHRは基本短時間です。毎回長く話すと本当に伝えたいことがある時に生徒が聞いてくれないので、長く話すのはここぞという時だけ。伝えたいことがある日は、必ず「学級通信」を配るのですが、まず指名した生徒に代表して記事を読んでもらい、漢字の読み間違いなどにツッコミを入れたりしながら、メッセージを伝えています。原稿は、伝えたい内容に合わせて、著名人の言葉などを採って載せることが多いですね。普段騒がしい生徒たちも、その日の休み時間は静かに記事を読んでもくれるんですよ。



ゲーム感覚で未来を描く ライフプランニングシート

1歳から60歳までのライフプランを記入するシートを生徒に書かせてみました。過去のことは実際にあった出来事を、未来に関しては自由に想像して書いてもらったのですが、生徒の性格や内面が表れるので、「意外とこういう部分を大切にしているのか、次の面談はあの話をしてみよう」というように面談をする時の切り口や話す内容のヒントになったんですね。なかには本当に真剣に考えて、「こうした道に進みたいから、専門学校ではなくて大学に行きます」と進路を変えた生徒もいました。これは実践してよかったですね。



現在の 取り組み

年度頭の決意表明で 前向きな気持ちを引き出す

今年の4月、「全部本気で取り組もう」というメッセージを伝え、一人ひとりに「書いた通りにできたかどうか、卒業式に返却するから頑張ろう」という形で「決意表明」を提出してもらいました。そこに書いた内容は1年間の自分との約束になるので、それぞれが時々思い出しながら、前向きに頑張ろうとしてくれている様子がうかがえます。もちろん「部活の試合で勝つ」といったことを書いて、その通りにならない生徒もいますが、結果よりもプロセスが大事ですし、卒業式に返却する際にはそこを評価してあげようと思っています。

- 年度頭に生徒が決意表明する
- 決意した通りに生徒は頑張る
- 生徒の頑張りを卒業式に評価する



経験が浅いからこそ大事にしたい 自分の思いをしっかりと伝える

私はまだ若いですし、自分が未熟だという自覚もあります。ですから、私の指導に対して、生徒はもちろん、保護者の方、周りの先生方から「納得いかない」と思われることもあると思います。だからこそ、経験の無さを言い訳せず、自分にできることは何かを真剣に考えて、精一杯やらないといけないと感じています。そうでなければ信頼される教員にはなれないというか、一つひとつの指導の意図を聞かれた時に、自分の思いをしっかりと伝えられるように強く意識して、毎日の指導に取り組んでいます。

- 自分の至らない点をしっかりと分析する
- 何事も真剣に考えて取り組む
- 指導理由と思いをしっかりと伝える

